

# 中部産業遺産研究会 会報 第43号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

新年あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い致します。

## ・第114回定例研究会の開催について

日時：2012/01/29(日) 13:00～17:00

場所：名城大学名駅サテライト会議室

### 1. 研究報告、調査報告

「産業遺産の見方・調べ方 - 近代の産業遺産の見つけ方・調べ方 - 」天野博之・予定

「旧地名発電所建物解体までの経緯と保存問題」

永井唐九郎、野口英一朗、天野武弘、中住健二郎・予定

「短命に終わった日本の真空管式パーターブルラジオ」渡辺治男・予定

### 2. その他の諸報告、保存問題など

「産業技術記念館の収蔵庫調査の終了報告」天野武弘・予定

「産業遺産の概念について - 産業考古学会熊本大会での発表と、議論の様子 - 」

天野武弘・予定

### 3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

### 4. シンポジウム

### 5. その他

「定例研究会の進め方について」例会幹事・予定

「名古屋事務所と在庫書籍などについて」事務局・予定

資料紹介

## ・名古屋都市センター20周年記念 2011年 パネル展と講演会の報告

寺沢安正

5回目となる今年の「2011年パネル展」は、20周年を迎えた名古屋都市センターの共催と、産業考古学会・名古屋市・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・名古屋商工会議所の後援を得て、2011(平成23)年11月1日(火)から13日(日)まで、名古屋都市センター11階まちづくり広場・企画展示コーナーにおいて行った。テーマは「名古屋のものづくり・まちづくりを育んだ木材産業 - ものづくりの原点から - 」であった。さらに、今回のパネル展に関する講演会を期間中の11月6日(日)に、同センターのまちづくり広場 11階ホールにおいて開催した。講演会に引き続いて、当研究会の定例研究会を一般に公開して行った。

今回のテーマである名古屋地域の木材産業が、家屋・土木構造物の素材を提供してまち



写真1：パネル展会場

づくりに寄与しただけでなく、時計・合板・楽器をはじめ車両・自動車・航空機など近代産業の発展の原点となってきたことを、パネル 43 枚で紹介した。当研究会員や研究家は、6 回にわたり勉強会を開き、意見や情報交換を行いパネル作成の参考とした。さらに、名古屋市市政資料館の企画展「マッチで照らす名古屋の街かど～昭和初期のラベルデザインから～」の広小路や大須の商店で配られたマッチ箱のパネルの一部を借り、特別展示した。

講演会はそれぞれの研究成果を、下記の 4 人が発表した。

「木材産業から名古屋のものづくりは発展した」 - 寺沢安正(中部産業遺産研究会員)

「木曾・飛騨の山林支配」 - 井土清司(中部産業遺産研究会員)

「航空機産業」 - 新郷美可(三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所)

「名古屋の時計産業」 - 大橋公雄(中部産業遺産研究会員)

期間中に入場者は 1,989 人、講演会の参加者は 55 人であった。また、中日新聞の 11 月 10 日付朝刊に「木材産業の歩み解説」で紹介された。

アンケートを行い、木曾・飛騨の森林と中部の産業との間に密接な関連があったことを改めて知ることができた。資料が整っており歴史にも興味がわき、研究成果を高く評価したい。新聞を見てきたが、事前にもっと PR しては如何でしょうか。などの意見が寄せられた。



写真 2：講演会での会長挨拶

## ・第 113 回 公開定例研究会の報告

市野清志

司会(永田 宏)・記録(市野清志) 参加者: 37 名

場所: 名古屋都市センターのまちづくり広場 11 階ホール、開催日: 2011/11/06 (日)

### 1. 研究報告、調査報告

#### [113-11-01] 「産業遺産の見方・調べ方 煉瓦造・石造」 水野信太郎

##### 1. 石造技術 研究途上の分野

石の材質を調査することによって歴史的な背景を判断することができる。西日本では中世末期の戦国時代に建設された大坂城の石垣を構築する以前から加工が困難で花崗岩(御影石)を使いこなす技術が既に「確立」していた。江戸では、伊豆半島から採取される安山岩を大量に活用した。

明治期の東京では、新橋横濱間鉄道の駅舎に千葉県産「凝灰岩質砂岩」の一種である房州石(鋸山の産)を使用。東京で近代以降の建設工事に「花崗岩」が使用された嚆矢は皇居の二重橋である。これは土木工事である。建築物としては 1898(明治 29)年竣工の日本銀行本店(現在旧館・重要文化財)である。日本銀行 2 階の貴賓室は茨城産の白大理石「寒水石」を使用した。

##### 2. 煉瓦建築 ほぼ技術的な歴史研究は終了

技術史的な研究は全国的な史観が総括的に完了した。残されている部分は東北地方の生産史的な調査と、技術史ではなく、例えば「文化史」などのソフトな歴史の研究と思われる。一方、現状で必要とされる具体的な方策は、現地保存のための思想的根拠、経済的で有効な耐震化の補強工法、最も相応した再利用方法の実践であると提案した。

##### 3. 「れんが」の基礎知識

煉瓦を見る注目点として色合い、肌合い、形と寸法、刻印、煉瓦の積み方、目地材料・接着剤など 30 項目について説明された。

#### [113-11-02] 「産業遺産の見方・調べ方 木構造」 野口英一朗

##### 1. 現状を把握するために、平面や断面等を作図する。

現場では各図のスケッチを描き、仕上げ（床・壁・天井）や部屋名称を書き込み、主要な採寸をする。平面は、基本で建物全体を知るために行うことは一番の基本である。断面は、高さ関係や小屋組の種類の違いを知るために行う。有効な場所で採取する。矩形、立面、配置、架橋について解説。

2. 以前の様子を知るために、痕跡を書き留めて想像して復原図を作成する。

痕跡の採取は、建設時や使われて変化した事を知るために行う。外部では風食差があり、内部では使用された具合により、木材等に丸みが出来たり、建具のすれた痕跡や、色合いの差が生じたりする。改造や増改築などで使われていない彫り、使用している材料や道具が変わって加工痕跡が変化し、増築や改造の年代区分が可能となる。棟札には建造年月日、施主、大工、左官などが記されているものもある。二次資料として、施工時の写真、図面（板図・古絵図）や聞き取り調査により不明部分が補える。解体による痕跡や二次資料などを総合して、建物の変遷を知る事が出来る。数多く調査すれば、同じような部分があり参考出来る。

プレゼンテーション資料として実際の平面図、断面図を作図し、復原図を作成した行程を示した。具体例として旅籠屋「清明屋」（豊橋市指定文化財）の修理例を取り上げた。建物群について、昭和時代に撮影したと思われる写真等を使用した。

【113-11-03】「紙資料の保管方法」 永井唐九郎

（脱酸素状態の資料保管）

紙の劣化の原因について、光（日光や照明に含まれる紫外線）、酸素（酸化 錆）、熱（日光や空調に起因）、水（多すぎても少なくとも）、化学物質（自分自身が発生源の場合も）と物理的（人間が触れるなど）が挙げられる。この中で酸素を遮断する脱酸素による資料保管について現在、取り組んでいる事について述べられた。脱酸素による保管方法は20～30年前から海外で取り組みだした。日本では東京文化研究所（東文研）が中心に研究を進めている。

脱酸素状況の作り方について具体的に順序を挙げて説明した。最初は容器に資料を入れ、脱酸素剤を利用して酸素を減らし、次に不活性ガス（窒素）を封入し、一酸化炭素の濃度を1%以下にして封印をする。脱酸素剤として三菱化学（株）のエージレンスやRP剤がある。

長所として防虫・殺虫・防黴効果が高い。酸化防止が出来る。短所として特殊容器や不活性ガスの封入や真空にするに設備が必要でありコストが掛かる。具体的に茶関係の研究資料について保管経緯を説明された。そして今後の計画について年1回（4月ころ）に抜き取り検査を実施し状況の把握をする。茶関係の資料については現在目録、作成・整理作業を行っている。将来的には公開について問題のない資料は電子化して行くことを述べられた。

2. その他の諸報告、保存問題など

なし

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

【113-31-01】研究誌『産業遺産研究』第19号について 浅野伸一

【113-31-02】会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集 橋本英樹

4. シンポジウム

【113-41-01】シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第30回記念 山田 貢

詳細は別紙のチラシをご覧ください。

5. 見学会、その他の催し物

【113-51-01】第112回定例研究会・見学会 報告 2011/09/25(日) 大橋公雄

場所：三岐鉄道西藤原駅：ウィステリア鉄道 および 丹生川駅：貨物鉄道博物館の見学 25名  
見学会の様子は10月20日発行の会報第42号に掲載されています。

【113-51-02】「ものづくり文化再発見！ウォーキング」報告・予定報告 寺沢安正

2011/10/08(土)に開催された、西尾市「抹茶・歴史街道」を見て歩こう！には、157名の参加者がありスタッフを含めると約200名になりました。尚古荘での「平坂街道」「矢作川とガラ紡績機」の解説によって、質問が大変多くあり盛況でした。

次回は、名古屋城～清洲城！ 美濃路沿いに名古屋から清須をめざすウォーキングです。

開催日：2011/11/12(土)

集合場所：名古屋城東門・愛知県体育館

集合時間：8時50分、出発：9時

コース：名古屋城（スタート）- NHK記念碑（名古屋テレビ塔の説明も）- 瀬戸電旧堀川駅 - 四間道&円頓寺商店街 - 西枇杷島問屋記念館 - 飴茶庵 - キリンピアパーク名古屋（ゴール）  
解散後、清洲城&ドラマ館「江と三英傑 絆のやかた」へ

[ 113-51-03 ] 第5回「2011年 パネル展」 大橋公雄

1 .2011/11/01(火)~11/13(日) 名古屋都市センター11F まちづくり広場・企画展示コーナー

2 .2011/11/06(日) 13:00~17:00 講演会・公開研究会 名古屋都市センター11F 大ホール

6 .文献紹介、資料紹介 ( )内は紹介者

【その他の資料】

[ 113-63-01 ] 「中経連 vol.244」中部経済連合会 (事務局)

[ 113-63-02 ] 「ニュースレター vol.89」名古屋都市センター (事務局)

[ 113-63-03 ] 「2011年度産業考古学会 関連学会 活動報告」産業考古学会 (事務局)

7 .出版広報事業

[ 113-71-01 ] インターネット <http://csih.sakura.ne.jp/>

[ 113-71-02 ] 中部産業遺産研究会の本

8 .委員会、役員会、研究分科会

[ 113-81-01 ] 幹事会・役員会

・第3回幹事会 2011/08/07(日)~08/13(土) 電子メール

1、「夢と憂鬱 - 吉野馨治と岩波映画」の上映会開催依頼について(野口事務局)

・第4回幹事会 2011/10/10(月)~10/15(土) 電子メール

1、「文化のみち二葉館へ企画書」の提案について(寺沢幹事)

[ 113-81-02 ] シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第30回 実行委員会

・第5回 2011/11/06(日) 10:30~12:00 名古屋事務所

・第6回 2012/01/29(日) 10:30~12:00 名城大学名駅サテライト会議室・予定

[ 113-81-03 ] パネル展「名古屋のまちづくり・ものづくりを育んだ木材産業」勉強会

・第5回 2010/09/11(日) 14:00~17:10 名古屋都市センター13F

・第6回 2010/10/09(日) 14:00~16:50 名古屋都市センター13F

[ 113-81-04 ] 研究誌『産業遺産研究』第19号 編集委員会

・必要に応じて電子メールで連絡

[ 113-81-05 ] 第15回 TICCIH 本会議(台湾・2012)参加への勉強会

9 .総務・事務局関係

[ 113-91-01 ] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

・第114回定例研究会 2012/01/29(日) 13:00~ 名城大学名駅サテライト会議室

・第30回記念「日本の技術史をみる眼」 2012/02/26(日) 13:00~ 名城大学名駅サテライト多目的室

・第115回定例研究会・見学会 2012/03/25(日) 13:00~ 見学先未定

・第20回総会・第116回定例研究会 2012/05/27(日) 13:00~ 会場未定

[ 113-91-02 ] 会員異動 ( )内は入会日・退会日

・入会：ありません

・退会：ありません

## ・シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第30回記念の開催について

今回は30回目であるため記念シンポジウムとして、2012/02/26(日)13:00より、名城大学名駅サテライトの多目的室で行います。

テーマは「産業遺産研究の歴史と現状を考える」です。基調講演は会長の佐々木享氏による「産業遺産研究のこれまでと今後への期待」と、副会長の天野武弘氏の報告「シンポジウム「日本の技術史を

みる眼」と産業遺産」です。パネルディスカッションは発表の両氏と、岡山大学大学院教授の馬場俊介氏、会員の種田明氏と水野信太郎氏で行います。

申し込み方法や日程などの詳細については、別紙のチラシをご覧ください。多数の会員の参加をお待ちしています。

## . 短信

中部電力管内で最古の送電鉄塔 中住 健二郎

筆者は、明治から大正期にかけて建設された送電鉄塔の今日までの変遷や、鉄塔としての特徴を、できるかぎり多くの例を比較して考察するため、各地に残る送電鉄塔を調査している。

この度は、長野県長野市に存在する、中部電力株式会社（以下、株式会社を省略）の管轄内で最古の送電鉄塔について調査した。本鉄塔は同社の「長野電鉄線 NO.12」鉄塔である。筆者は2011（平成23）年7月28日に、同社長野電力センター送電課のご協力を得て、本鉄塔を調査することができたので、その内容について報告する。

「長野電鉄線 NO.12」鉄塔（以下、NO.12鉄塔と呼称）は、長野市吉田三丁目1114-1の位置に在る。JR北長野駅から徒歩で約15分の場所にあり、辰巳公園の西入り口前に立っている。外観は〔写真〕のようである。本鉄塔の建設期は1910（明治43）年10月である。

1895（明治28）年頃より日本国内の工業化が高まり、長野県では1896（明治29）年に松本電灯が設立されて以来、数年の間に長野電灯、諏訪電気、飯田電灯、上田電灯、安曇電気、信濃電気の小規模な水力電気事業が興された。

1897（明治30）年5月、小坂家4代目小坂善之助が長野電灯を設立したが、それを資本金、発電能力においてともに上回る信濃電気が、1903（明治36）年5月、製糸工場を経営する越 寿三郎によって設立された。

信濃電気は、長野県と新潟県の県境を流れる関川に懸かる落差55mの苗名滝の水利権を獲得して、1906（明治39）年8月10日に高沢第1発電所を建設し、認可出力300kWで運転を開始した。その設備は出力300kVA発電機1台、単相200kVA変圧器3台、周波数60Hzであった。電力は送電電圧25kVで23.1km離れた長野市の吉田変電所を経て同社吉田工場へ送電され、カーバイトの製造を開始した。信濃電気はその後、日本窒素肥料（現・チッソ）と連携して信越窒素肥料となる。これが現在の信越化学工業である。

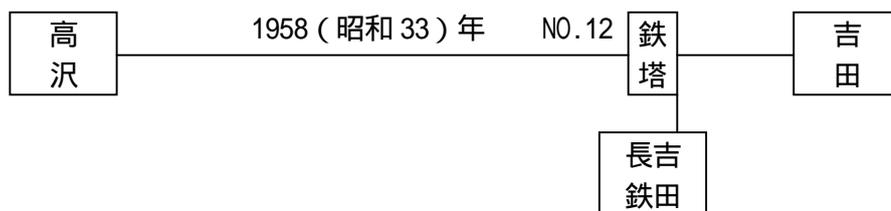
当初の送電線路は高沢第一線と称し、送電線の支持物は木柱が使われた。1910（明治43）年10月、新たに第二線の線路が設けられ、第一線と同様の電圧で、亘長24kmの吉田変電所へ送電された。この時点で、支持物に鉄塔と鉄柱が使用された。



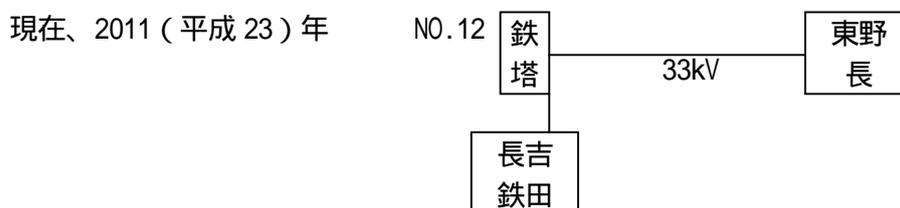
その後、1913（大正2）年に第二線が、また、1920（大正9）年に第一線が、ともに送電電圧を35kVに昇圧している。1958（昭和33）年に至り第一線が撤去された。第二線は高沢吉田線と改称された。その際、吉田変電所から本鉄塔を経て長野電鉄吉田変電所へ送電された。その時点で本鉄塔は「長野電鉄線 NO.12」と称された。従って本鉄塔は、高沢第二線と長野電鉄への送電線を併架した。その状態は、1999（平成11）年に高沢吉田線が撤去されるまで続いた。



写真：NO.12鉄塔



1980年(昭和55)に東長野変電所から吉田変電所へ送電が開始された。現在は東長野変電所より直接本鉄塔を経て、長野電鉄吉田変電所へ送電されている。送電電圧は33kVである。



本鉄塔が今日まで残ったのは、以上の変遷から分かるように、長野電鉄への供給線路を新設する際、送電線が当該鉄塔へ併架され、そのまま高沢吉田線が撤去されたという事情によるものである。今回の調査で、一世紀にわたり鉄塔が残った経過を知り得たことは幸いであった。立地条件としては、本鉄塔が長野電鉄吉田変電所に最も近い位置にあったことと、公園入口前で他の建造物がなかったことが挙げられよう。

本鉄塔は四角鉄塔で、地上高は19.1m、地下埋め込みは約2mである。地上における塔体最下部の幅は3.5mである。これは土地状況、用地条件および鉄塔高によって決めるが、現在の設計標準に照らしても妥当な値となっている。骨組はプラット組であるが、形状に特徴的なものはない。基礎部の鋼材(山形鋼)の幅は90mm、厚さは10mm。上部の鋼材の幅は45mm、厚さは4mmである。4本の主柱材は建設当時のものと考えられる。送電線が長野電鉄線を横断するため電線を公称断面積55mm<sup>2</sup>硬銅より線から80mm<sup>2</sup>鋼心アルミより線にした際、鉄塔の一部を改造した。他の部材も更新されたものもあるが、建設時のものは判別可能である。材質はSS330およびSS400。また、鉄塔の風圧荷重は、現在の設計値で290kg/m<sup>2</sup>、鉄塔重量は約2トンとのことである。使用されているガイシは6連懸垂ガイシであるが、以前のものは記録がなく不明である。通常の風雪設計は行っている。長野電力センターはメンテナンスを定期的に行っており、チェックポイントとしてはボルトの弛み、サビなどであるが、サビの進行は遅い。

表：塔之沢線鉄塔の諸数値

送電電圧	44kV
巨長	58km
地上高	13.42m
地下埋め込み	1.83m
地上でのベースの一辺	2.745m
風圧荷重	195.26 kg/m <sup>2</sup>
鉄塔重量	1.54トン
公称断面積	55mm <sup>2</sup> 硬銅より線

国産鉄塔第1号は、箱根水力が1909(明治42)年に建設した塔之沢線(塔之沢発電所～保土ヶ谷変電所)の鉄塔である。その一基が東京電力電気史料館に保存されている。鉄塔の設計者寒川恒貞が1909(明治42)年6月29日に電気学会で「箱根水力電気工事に就て」講演をしている。その中で、送電線路の直線の個年所に用いた鉄塔の設計を詳述しているので、諸数値を右の表に示す。NO.12鉄塔とは立地条件を始め送電電圧や送電距離などが異なることから、単純に比較することはできないが、塔之沢線鉄塔が建設された翌年にNO.12鉄塔が建てられているので、塔之沢線鉄塔の諸数値を参考データとして掲載する。

今回の調査によって、NO.12鉄塔の変遷と100年を経て今日まで稼働状態で残っている理由が判明したことは、産業遺産としての送電鉄塔を考察する上で一つの目安となったと思う。他の明治・大正期の送電鉄塔を調査する場合、本鉄塔と比較して考察できるからである。尚、今後、鉄塔の諸数値については、1926(大正15)年に制定された送電鉄塔設計標準の変遷と比較しながら検討したいと思う。

調査にあたり中部電力 流通本部 工務部 送電グループ並びに同社 長野電力センター送電課の御協力をいただいた。また、信越化学工業 総務部及び東北電力 電力システム部より資料の御提供をいただいた。記して感謝の意を表します。

## ・お知らせ

来年度の定例研究会などの日程について

〔2012/05/19(土)産業考古学会総会・研究発表、20(日)見学会〕

2012/05/27(日)、第20回総会・第116回例会

2012/07/22(日)、第117回例会

2012/09/23(日)、第118回例会・見学会

〔2012/11/04(日)～08(木)TICCH台湾大会、09(金)～11(日)ポストツアー〕

2012/11/25(日)、第119回例会

2013/01/中下旬(日)、パネル展講演会・公開第120回例会

2013/03/24(日)、第121回例会

2013/05/26日(日)、第21回総会・第122回例会

「ものづくり文化再発見！ウォーキング大会」の清須コースの報告

2011/10/08(土)の西尾市「抹茶・歴史街道」を見て歩こう！に続いて、今年度2回目の「ものづくり文化再発見！ウォーキング大会」が、名古屋城を出発地としてキリンピアパーク名古屋までの清須コースで行われた。

開催日の2011/11/12(土)は晴天に恵まれ、これまでの大会で一番多い261名が参加した。出発式で名古屋武将隊の見送りを受け、途中のNHK名古屋放送記念碑や瀬戸電旧堀川駅や美濃路街道沿いにある西枇杷島問屋記念館などで説明を行い、ゴール後にキリンピアパーク名古屋での工場見学や試飲などがあり、好評のうちに終了した。



出発式

第6回「2012年度 パネル展」について

1．開催日：2013/01/中下旬の2週間を予定

テーマ：「名古屋のまちづくりを発展させた鉄道網」(仮)

内容：武豊線、東海道線、中央線、名鉄、近鉄、名古屋市電、地下鉄、名古屋駅

場所：名古屋都市センター11F まちづくり広場・企画展示コーナー

講演会：パネル展の期間中に行い、引き続いて公開での定例研究会とする。

2．勉強会 2012/02/05(日) 14:00～16:30 名古屋都市センター13Fで予定

勉強会への参加希望やその他の問い合わせは、大橋公雄担当幹事までお願いします。

第115回定例研究会・見学会について

開催日：2012/03/25(日)午後

見学先：一宮市内の鋸屋根工場と一宮市尾西歴史民俗資料館

資料館では一宮市制90周年記念(第85回)特別展「のこぎり屋根と毛織物」や常設展を見学します。集合の場所と時間や行程などは、3月1日発行予定の会報第44号に掲載します。

近代化遺産に命を吹き込む市民活動 全国トンネル(廃線活用)サミットの開催(第一報)

サミット：2012/03/31(土) 13:30～17:00・聴講：無料

春日井市 勝川プラザホテル(春日井市松新町1-5、JR中央線「勝川」駅前)

参加予定団体、北海道・土幌線ひがし大雪アーチ橋友の会

群馬県・碓氷峠鉄道施設を愛する会

長野県・篠ノ井線 ケヤキの道  
兵庫県・湊川隧道保存友の会  
宮崎県・高千穂あまてらす鉄道

コメンテーター 小野田 滋

主催：全国近代化遺産活用連絡協議会 東海・北陸ブロック  
(富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県)

主管：NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会

当研究会は後援団体になる予定です。

詳しくは今後発行される主催者のチラシなどや、3月1日発行予定の会報第44号をご覧ください。

TICCH2012 台湾の開催

開催日：本会議 2012/11/04(日)～08(木)、ポストツアー09(金)～11(日)

当研究会はTICCHの会員であり、今回のTICCH2012台湾に中部地区で台湾と関わりのある産業遺産を紹介するパネルを作成し展示を行うため、実行委員会を立ち上げて勉強会を始めようとしています。実行委員会はパネルの作成・展示だけではなく、会員個人の発表を手伝いも出来ればと考えています。紹介する産業遺産や個人発表としては、名古屋テレビ塔、依佐美送信所、鉄道、水道などが見込まれています。今後は、台湾大会事務局からの具体的なお知らせを待つて進めます。

会計幹事より年会費納入について

今年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ませんが、担当者が欠席する場合がありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266

口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、昨年度の未納の方も数名おられ、2年間未納の場合は退会となります。

問い合わせは、市野会計幹事までお願いします。

研究誌『産業遺産研究第19号』編集委員会より

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。

会報編集委員会より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。原稿はテキスト形式で作成していただく と編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。

原稿送付先：野口英一朗 [noguchi.@d5.dion.ne.jp](mailto:noguchi.@d5.dion.ne.jp) (アドレスにご注意下さい。@の前にドット。)

電子メールをお持ち会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事 ([hidekih@wine.plala.or.jp](mailto:hidekih@wine.plala.or.jp)) までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

---

中部産業遺産研究会会報 第43号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.43 2012-1

発行：中部産業遺産研究会

発行人：佐々木享

発行日：2012年1月1日

編集委員：野口英一朗・伴公太・中住健二郎・橋本英樹

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.